



## 高3から後輩へ(付属推薦や総合型選抜等 年内入試について)



日本大学や他大学への進学予定の高3から、今年度実際に受けた試験について高1・2へ向けてアドバイスを書いてもらいました。先輩たちの熱い思いを受け取ってください。

### 【面接試験】

- ◆興味のある研究室を1つ見つけておいて、その研究室が行っている研究内容くらいは把握しておいた方がいい。
- ◆待ち時間では電子機器の使用は雰囲氣的にダメっぽいので(暗黙の了解?), 事前に話す内容とかを直前に確認しておきたい場合は、紙に書いたり印刷したりしましょう。
- ◆面接では専門分野について聞かれます。担任の先生の教科の範囲外ということもあるので、担任の先生とは入室の流れや一般的な質問、同じ選択科目の友達同士とは専門分野についての質問の練習をするなど、目的を分けて練習すると良いと思いました。
- ◆志望理由とそれに対しての大学でやりたいことなどを考えておいた方がいい。
- ◆オープンキャンパスは絶対に行っておいた方がいい。
- ◆面接官は学校からの推薦書、そして自分が書いた志望理由書を元に質問してくるので、担任にどんな内容を送ったのか軽く聞いた方がいい。志望理由書の意見をぶらさない。
- ◆面接は、担任の先生との練習をしっかりとしてれば問題ない。特に高校時代頑張ったことやニュースをよく考えておけば深掘りされても答えられる。文章で言うことを丸暗記するのではなく、単語(キーワード形式)で覚えることを推奨する。
- ◆なぜ日大なのかについても答えられるようにしておく。大学でどのようなことをしたいのかしっかり想像しておく。
- ◆集団面接だと、周りの受験生が、長く話していると不安になると思うが、しっかりと考えてきたことを自信持って言えれば問題ないと思う。
- ◆志望理由・自分のやりたいこと・将来の夢など、自分の中に絶対的な「信念」や「核」となるものを持っておくこと。突拍子のない質問や困った質問が来ても、それが突破口となる場合があります。
- ◆「生物資源科学部の環境学科」と「生産工学部の環境安全工学科」、「理工学部の建築学科」と「理工学部の海洋建築工学科」のように同じような学科が他にあるとなぜここなのか聞かれるので、答えられるようにしておいた方がいい。
- ◆礼儀作法が一番大事だと感じた。相手の目を見ながら話す。
- ◆緊張していたけど面接練習より簡単な質問が来た。人数が多いからなのか面接時間はどの学科も3〜7分でした。(法学部)
- ◆人数が少ない分1人1人かなり時間を割きます。想定外の質問はもちろん、志望理由書に書いたことは隅々まで突つかれました。裏の裏まで読めるくらいに面接練習はするべきだし、自分のペースは崩さず、アドリブでの対応もできるように準備しましょう。(文理学部)
- ◆模擬講義の理解度チェックは、「講義を聞いて印象に残った言葉は何か。それを踏まえて大学でどのように学びたいか」を20行の中でまとめないといけないため、文をしっかりと書けるようにしたい方がいい。ただし模擬講義で扱う内容はあまり難しくないので不安になる必要はない。(商学部)
- ◆面接前に面接票というのを書いた。志望理由(5行程度)/趣味・特技/高校生時に頑張ったこと(3行程度)などを書かされるので準備しておいた方がいい。面接はそこから質問される。(理工学部)

### 【総合型選抜】

- ◆「自分の興味のあることは頑張れるのに、学校の勉強は頑張れない…」という人ほど総合型選抜をするべき!!!
- ◆勉強しなくて大学に進学できる方式だと思っている人、どこでもいいから大学に行きたい人はやめておいた方がいい。
- ◆ちゃんと大学のことを調べて「ここに行きたい」という気持ちを持ち、自分のやってきたこと(課外活動や研究など)を振り返ってそれがマッチしていて、一貫性をもって最後までやり切れるのであれば挑戦した方がいい。
- ◆総合型の面接は日大の付属推薦などの面接と違って圧迫面接が多いと感じた。面接練習で先生に圧迫をリクエストして練習しておく。特に志望理由に関してはかなり深掘りされた。
- ◆受験方式にかかわらず、課外活動しておいたほうが良い。ボランティアなどの課外活動は、総合型選抜を受験するかどうかを問わず、多くのことが学べるし、社会問題への関心が芽生えたり、それを通して将来やりたいことが見つかったりします。
- ◆大学のパンフレットに載っているおすすめの本は読んでおいたほうがいい。
- ◆高3になってから始めるのでは遅い。継続的に活動してきている人がチャンスをつかめるので、今のうちから準備をしたほうが良い。
- ◆上位の大学を目指す場合は評定も見られているので、ある程度の成績は取っておかないと合格できない。
- ◆GMARCH以上の大学は、付け焼刃では太刀打ちできない。高校1年から継続して取り組む必要がある。また、「部活動を3年間続けた」レベルはたくさんいるので武器にならない。続けたことで「何を得たのか」、「結果はどうだったのか」、などの実績が重要であり、それをアピールするプレゼンカも重要である。



### 【志望理由書や小論文の作成について】

- ◆日頃から本や新聞など、活字に触れ合うことが大事だと思います。
- ◆基礎学でも面接や志望理由書を書かなければならない学部もあるが、志望理由書が書けない人はちゃんと勉強して基礎学力到達度テストで行った方がいい。
- ◆失敗してはいけない紙(事前課題の小論文)があるので、緊張感をもって取り組むことが大切。(経済学部)



### 【その他】

- ◆日大マイページを作る際に、住所を入力するところがあるが、部屋番号までちゃんと入力した方がいい。先生に呼び出されて焦ることになる。
- ◆日ごろから遅刻せずに学校に登校する。課題は提出期限を守る。保護者に書いてもらうプリントはなくさず、くしゃくしゃにせずきれいな状態で提出するなど、基本的なことがしっかりできていると良いと思いました。
- ◆高3になると大事な書類を扱うことが多いので、クリアファイルのカバンに1つは入れておきましょう。また、大事な書類はボールペンで記入することが多いです。ボールペンの扱いに慣れておく、書きやすいボールペンを見つけて、1本筆記用具に入れておくようにしましょう。
- ◆テレビ、ネット、ラジオ、SNS、映画、アニメ、本、美術館、博物館など、何でも構わないので日々の生活の中に自分の進路に関わるヒントはないか、常にアンテナを張っておくことが大切だと思った。



## 高2小論文テスト ～志望理由書～

1月9日(金)の5・6時間目に、小論文テストを実施します。昨年度も実施したテストですが、昨年は与えられたテーマの中から1つを選択して書きました。今回のテストは、次年度の大学受験を見据えて「志望理由書」を書くこととなります。

志望理由書とは、自身がなぜこの大学・学部・学科を志望しているのかを伝える書類です。これは、学校推薦型選抜を使って大学進学を考えている生徒、いわゆる付属推薦で日本大学や指定校推薦で他大学への進学を考えている生徒、および総合型選抜で進学を考えている生徒が必要になります。一般選抜のみ考えている生徒は必要ないと思うかもしれませんが、実はそうではありません。前掲の選抜方法と比較すると少ないですが、近年では一般選抜でも志望理由書の提出を求める大学が増えています。また、2次試験で面接がある場合には、頭の中で志望理由がまとまっていないといけません。

志望理由書を書くにあたり、なぜその学問分野に興味を持ち、深く学びたいと思うに至ったかを考えてほしいと思います。次に、なぜその大学・学部・学科を第一志望とするのかを見直しましょう。各大学にはそれぞれの魅力や特徴(カリキュラム等)があります。別の大学でもよくない？と言われないようにしなくてはなりませんね。また、アドミッション・ポリシーも調べておきましょう。これは、大学の教育理念や求める受験生の能力や適性等について書かれているものです。この内容に適合するように、書かなくてはなりません。そして、将来はどうしたいのかも考えられるとよいでしょう。

冬季課題として、「マスターノート」を配付します。ただ単に取り組むのではなく、先ほど書いた内容も考えてみたり、調べてきてください。

2月18日(水)には、1回目の添削をもとに、もう一度書き直します。今回の小論文テストをいいかげんにやり過ぎて、あとで担任に泣きついて教えてもらうのではなく、自分のためにしっかりと小論文テストに取り組むようにしましょう。

## 高1小論文テスト ～ステップ基礎小論文～

1月9日(金)の5・6時間目に、小論文テスト①が実施されます。小論文とは、「自身の考え」を「コンパクト」に伝えるものです。ただ、思うがままに自分の主観的感想や意見を書くだけでは、合格点はありません。テーマとなっている内容に対する読解力や思考力、論述力が試されるものです。総合型選抜・学校推薦型選抜・一般選抜等で小論文試験を課している大学も多いです。

小論文のテーマは当然、受験する学部や学科に特化した内容になっています。つまり、法学部であれば法律関係、文学部であれば文学に関する内容が出題されます。多くの総合型選抜では、このように学部・学科に紐づいたテーマが出題されています。そのため、志望する大学や学部・学科の教授のことをよく知っておくことが大切になります。大学や学部、指導教授への理解を深めた上で、もう一つ押さえておくべきものは、時事問題です。学部・学科の研究内容と現代の諸問題を絡めたテーマが多く出題されるため、世の中の動きを把握できるよう、普段から新聞やニュースはチェックしておきましょう。なぜ、小論文を選抜方法の1つとして取り入れている大学が多いのでしょうか。大学の授業では、文系・理系を問わずレポート課題があります。これは主観的な要素のみではなく、客観的な根拠を示すレポートです。つまり、論理的思考力と表現力がなければ書けません。4年生では多くの人が卒業論文もしくは卒業研究に取り組みます。また、社会人になれば企画書等の作成が待っています。このように、文章を書くことは今後の人生において必要なスキルになってきます。初めて小論文を書く人も多いと思いますので、冬季課題として「書き方ノート」を配布する予定です。また、2月18日(水)の3・4時間目には小論文講演と小論文テスト②(リライト)もあります。

## 日大一般選抜 N方式について



高3は、一般選抜の受験スケジュールを立て始めているころだと思います。受験日の連続は、最大でも3日とされています。4日連続だとさすがに体力面でも精神面でも大変だと思います。そんな中で、一度の受験で複数学部学科に出願できる各大学での入試方式は、入試日程を組むうえで一助となることがあります。また、検定料の節約にもつながることがあります。

日本大学でも、2月1日(日)にN全学統一方式(通称、N方式)があります。日大付属生は、付属生ならではの恩恵をこの試験で受けることができます(第1期のみに適応、第2期は対象外)。

- ①最大10学科の併願可能(ただし、入学の意思があるもの)
- ②入学検定料は無料

(通常は1学科18,000円。医学部は60,000。歯学部は24,000)

希望する生徒については、2学期の終業式(12月22日)で説明会をします。また、3学期の始業式(1月8日)放課後に集合して出願作業をしますので、各個人では出願しないようにしてください。



高1高2については、まだ先のこととは思いますが、各学校の入試方式をしっかりと調べておく必要があります。年内入試には総合型選抜や学校推薦型選抜、年明けには一般選抜があります。近年、総合型選抜でも学力テストを課す学校も増えており、一般選抜組でも挑戦出来る選択肢が増えました。また、一般選抜でも上記のような統一日程だけではなく、共通テストの成績を併用したり、外国語検定資格を用いたり、私立でも4教科以上の学力試験があったりと様々な方式があります。その方式により、倍率が大きく異なることがあります。1年後や2年後の自分をイメージして、早めに動き出しましょう。

\*\*\*\*\*

### 12月の進路行事

		月
12月1日(月)	日大付属推薦合格発表 (高3)	日
	追加募集実施学部学科発表 (高3)	～
12月4日(木)	追加募集セレクション申告届提出 (高3)	～
12月5日(金)	追加募集セレクション結果発表 (高3)	日直

12月1日(月)以降、日大の推薦受験や他大学の指定校受験等の合否結果が発表されます。対象になっている高3は、必ず各自で確認し、担任へ報告をしてください。また、その後の入学手続きにおいても、手続きの完了報告をするようにしてください。

一般選抜に臨む予定の高3は、これからが最も力が伸びる時期です。頑張ってください。

日大の追加募集の流れについては、上記黑板のように基礎学力選抜と同様です。追加募集が出る学部は12月1日(月)の発表までは分からず付属推薦の結果次第にはなりますが、もしも対象になった場合はすぐに対応できるように準備を怠らないように。

12月10日(水)から、大学入学共通テストの受験票が出願サイトのマイページから取得・印刷できるようになります。必ずその内容(会場等)を確認して下さい。また、付属推薦等で既に合格している場合、共通テスト利用で他大学に出願することはありませんが、必ず受験をしてください。付属生以外の受験生は共通テストを受験して大学生になる人も多いので、1月でも自分の学力を維持できるようにしましょう。

次回1月号は、12月22日(月)に発行予定です